

地方分権を確立するための真の三位一体改革の実現を求める意見書

政府においては、日本経済は回復基調にあるとされているところであるが、本市の地域経済は未だ回復の兆しはみられず、経済の活性化による地域づくりが喫緊の課題となっている。

しかしながら、平成十六年度における国の予算編成は、三位一体改革の名の下に、本来あるべき国・地方を通ずる構造改革とは異なり、市町村の財政運営の基幹たる財源である地方交付税等の地方一般財源の大幅な削減が行われたが、これは国の財政健全化方策に特化されたものと受け取らざるを得ず、地方公共団体の行財政運営の実情を踏まえたものとなっていないことは誠に遺憾である。

特に、平成十六年度の税源移譲については、国庫補助負担金の廃止に伴う本格的な税源移譲が先送りされ、命綱である地方交付税等の地方一般財源の削減のみが突出した対策は、本市の行財政運営に致命的な打撃を与え、市民生活及び地域経済に多大な影響をもたらす事態を招来している。

このような中、政府においては、先般の「麻生プラン」に沿った考え方の下に、去る六月四日には、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針二〇〇四」が閣議決定されたところであるが、住民が安全で安心して暮らせる行財政運営が実施できる改革の実現が極めて重要である。よって、政府及び国会においては、二年目を迎える三位一体改革が地方分権の理念に基づいた真の地方分権改革となるよう、以下の事項についてその実現を強く求める。

- 一 地方交付税制度については、財源保障及び財源調整の両機能を堅持し、地方の実情等を十分踏まえ、その所要総額を確保すること。
- 特に、地方交付税総額は、平成十五年度以前の水準以上を確保すること。

二 税源移譲については、平成十七年度において基幹税による三兆円規模の税源移譲を先行決定し、実施すること。

三 国庫補助負担金については、地方分権の理念に沿った廃止・縮減を行うとともに、地域の実態を踏まえ、単なる地方公共団体への負担転嫁は絶対行わないこと。

四 三位一体改革に当たっては、全体像と工程表を早急に示し、地方公共団体の意向を十分尊重し、行財政運営に支障が生ずることがないよう対処すること。

以上、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出する。

平成十六年六月二十五日

岡山県津山市議会

六月議会に提出された請願の審査結果

● 国の財政再建優先の「三位一体改革」でなく地方分権のための地方税財政改革を進める意見書採択を求める請願書 ↓ 趣旨採択

● 一人ひとりにゆきとどいた教育を実現するため義務教育費国庫負担制度堅持を求める請願書 ↓ 採択

● 一人ひとりにゆきとどいた教育を実現するため少人数学級の早期実現を求める請願書 ↓ 採択

● 津山市立北小学校の校舎の改築並びに先進的教育環境の充実についての請願書 ↓ 採択

● 「容器包装リサイクル法の見直しを求める意見書」提出を求める請願書 ↓ 採択

● 犯罪被害者の権利と被害回復制度の確立に関する請願書 ↓ 採択

● 「地球温暖化防止のための森林吸収源対策の推進を求める意見書」の採択についての請願書 ↓ 継続審査

● 岡山県地方労働委員会労働者委員の「連合」独占選任をやめ、公正な任命を求める意見書提出を求める請願書 ↓ 不採択

編集後記

築城四〇〇年、国体、合併と行事が盛りだくさんの年です。その中で五月二十二日に行われた築城四〇〇年記念事業の「大石曳き」はご覧になりましたか。二回のリハーサルでは人力で石を動かせないまま本番を迎えました。議会の特別委員会の代表で企画に携わってきた私は、はらはらしながら本番を見守りました。

本番開始。何回目かの「ひけーっ」というかけ声と共に十六トンの石が煙を上げながら動きまわった。感動の場面でした。引く人、応援する人、企画で駆け回る人の力が一つのハーモニーになっていました。今の津山に必要なのはこのハーモニーです。感動を呼び起こした「大石曳き」がこれからの津山市の象徴であって欲しいと願いました。

五月二十八日合併協定調印式が行われ、明年二月二十八日新生津山市が誕生する。五市町村の住民の皆様が合併して本当に良かったと言える、新生のまちづくりを (謙)

議会質問のため、何度かアルネ図書館を利用した。在庫も多く大変助かる。並行してネットも使う。情報の新鮮度、量、検索スピードで図書館はどうなるのか。 (昌)

初めての編集は不安がいっぱい。でも、心強いS永編集長がいるから大丈夫。でも、本当は、影の編集長O倉さん、いつもお仕事まかせて、ごめんなさい。 (事務局 真)

編集委員会メンバー

◎末永弘之 ○佐々木裕子

岡安謙典、勝山 修、河本英敏、高橋 誠

竹内靖人、田中宣夫、野村昌平

表紙写真の説明

今回は、一宮保育所を撮影に行きました。通園している児童は百二十九人です。園では、「生き生きとした子どもを育てる事」「心身共に丈夫な子どもを育てる事」などを指導の重点目標にされています。園名は合成写真です。